

## 「高度経済成長期教育史」研究部会（第13回）

日時：2023年5月19日（金）13:00～15:10

場所：野間教育研究所

出席：米田俊彦・大島宏・須田将司・鳥居和代・西山伸 各兼任研究員

金沢千秋・川上智子（野間教育研究所事務局）

欠席：山口和人所長

内容：（1）西山伸研究員「東大パンフ」とは何だったのか

- ◆「東大パンフ」とは『大学の自治と学生の自治—最近の学生自治運動に関連して—』（東京大学、1965年11月1日）のことで、当時の活動家学生からは「諸悪の根源」のように言われた1969年1月10日七学部集会における確認書で廃棄決定
- ・「東大パンフ」の論理は帝国大学以来の大学自治に基づいていたことは事実
- ・「東大パンフ」の廃棄を強く求めたのは民青系、オールドリベラリスト VS 戦後世代という対立構図から説明できるかもしれないが、学生参加の論理は戦後間もないころから共産党系は主張しており、その延長線上であったという言い方もできる

（2）鳥居和代研究員「ことばなおし運動と地域の関係」

- ◆これまでの作業の補足として追加調査と腰越小のネサヨ運動のチェーン校であった大阪市立諏訪小学校のことばなおしにも対象をひろげ、当時の地域事情・背景を考察
- ・鎌倉市腰越の人口推移：ネサヨ運動が行われた時期は鎌倉山の丘陵地をはじめとした新興住宅地の造成にともない、腰越地区の山側にも新たな住民が流入しつつあった時期
- ・腰越婦人会の規模：ネサヨ運動当時の会員数は他の地区の婦人会に比して異常に多かった
- ・大阪市立諏訪小学校の場合  
ことばなおしに着手する地域的背景として、高度経済成長期の公営住宅建設に着目  
諏訪小と地理的に近い場所に府営住宅や市営住宅等が建設されたことが確認できる  
→学区の把握が必要
- ・今後の調査予定  
鎌倉市：『（鎌倉市）教育要覧』や腰越小学校のネサヨ関係資料の調査  
大阪市：諏訪小学校の沿革史誌等の調査、「大阪くらしの今昔館」への訪問など

・次回研究会 6月30日（金）13:00～

・次々回研究会 8月3日（木）13:00～